



淀川愛好会 YODORIC NEWS

No.86 2019 年 6 月 発行

〈社会人の窓 6〉

会計検査院について

柳生 光彦

私は、平成 4 年度に摂南大学工学部土木工学科（合田健研究室）、平成 6 年度に大阪工業大学大学院工学研究科（綾史郎研究室）を卒業して、水資源開発公団（現：独立行政法人水資源機構）に入社しました。現在、会計検査院に勤務しており、この度、澤井先生から淀川愛好会「社会人の窓」で近況報告の貴重な機会をいただきましたので、会計検査院について、紹介させていただきます。

会計検査院とは、税金や国債の発行によって国が集めたお金が正しく、また、無駄なく有効に使われているかどうかをチェックする機関です。会計検査院は、このような業務を他から制約を受けることなく厳正に果たせるよう、国会、内閣、裁判所いずれの機関からも独立しています。会計検査院が検査する対象は、国のすべての会計のほか、国が出資している政府関係機関、独立行政法人などの法人や、国が補助金等を与えている都道府県、市町村、各種団体などです。検査には主に 5 つの観点があります。①「正確性」は、決算の表示が予算執行などの財務の状況を正確に表現しているかという観点。②「合规性」は、会計経理が予算や法律、政令等に従って適正に処理されているかという観点。③「経済性」は、事務・事業の遂行及び予算の執行がより少ない費用で実施できないかという観点。④「効率性」は、業務の実施に際し、同じ費用でより大きい成果が得られないか、あるいは費用との対比で最大限の成果を得ているかという観点。⑤「有効性」は、事務・事業の遂行及び予算の執行の結果が、所期の目的を達成しているか、また、効果を上げているかという観点です。

さて、大学卒業後の主な就職先は、公務員、建設業、コンサルタント等であり、国のお金を使った業務に従事することが多く、就職後、会計検査院の検査に関わることであると思われれます。会計検査院の検査に対応するためには、会計検査院について理解を深め、普段から説明責任を意識して業務に従事することが大切です。

最後になりますが、淀川愛好会が平成 9 年に発足して 22 年が経過しました。淀川愛好会の益々のご発展を祈念しまして、私の近況報告を終わらせていただきます。有り難うございました。

（会計検査院第二局防衛検査第一課 調査官）

イベント案内 （詳細は3ページへ）

近畿水環境交流会 in 宇治川・伏見みなと 7月27日(土)28日(日)

イベント報告

大川クリーン活動 & 川で学び・つながる

4月28日(日)に石田ゼミの活動にも少しずつ慣れてきた頃、初めて休日にある大きなイベントに参加しました。イベントには、「おお川水辺クラブ」をはじめ、ダイキン工業労組様、地域の方々など、総勢100名以上が集まりました。大川右岸沿い及び大川左岸沿いの清掃活動後は、澤井先生による大川に生息している生物の調査や、学習会があり、大川について知ることができました。また、エコシビル部による、Eボート体験も行いました。これは家族連れで参加された子ども達にも大人気で、とても賑わいました。地域とのつながりを感じることができ、とても有意義な1日でした。(Y・S)



帝国ホテルをバックに集合写真

城北ワンド外来魚駆除釣り大会

5月12日(日)に城北ワンドで外来魚駆除釣り大会という活動がありました。私はゼミ生として外来魚の駆除を手伝わせてもらいました。今回のこの活動は名前の通り外来魚を釣ることを目的としていて、私も釣竿を借りて初めての釣りに挑戦しました。3時間ほど試行錯誤したのですが釣れませんでした。しかし、周りの年配の方や中高生が魚を間近で釣っているのを見られた貴重な経験でした。自分自身では魚を釣ることはできませんでしたが、楽しみながら川の生態系を保全でき、普段あまりできない経験ができた活動でした。(T・R)



釣りの指導を受ける子どもたち

琵琶湖・淀川流域圏シンポジウム in 大阪

5月18日(土)に大阪工業大学梅田キャンパスにて、「琵琶湖・淀川流域圏シンポジウム in 大阪」が開催されました。始めのポスターセッションでは、淀川流域勉強会やルネサンス大阪高等学校などの方々に参加して頂きました。その後の講演では、日吉ダム管理所前所長の今井敬三氏、京都大学防災研究所准教授の竹門康弘氏、琵琶湖博物館学芸員の橋本道範氏に講演して頂きました。また、多くの参加者があり、これからの治水・環境・文化について皆で考えることができました。(M・K)



総合討論における様子

クリーンリバー寝屋川作戦・春

5月26日(日)に毎年春と秋に行われているクリーンリバー寝屋川作戦という活動がありました。私は摂南大学エコシビル部として参加させていただきました。クリーンリバーでは胴長とライフジャケットを着用した後、川の中に入り、空き缶やビニール袋などのゴミはもちろん河川堤防に繁茂した植物の除去をしました。私は今年で4回目のクリーンリバーでしたが、2年前の寝屋川からは見違えるほどにきれいになりました。以前は原付やトタン屋根などの大型のゴミが沈んでいたことがありましたが、今では小さなゴミしか見当たらなくなりました。今後は小さなゴミも無くなり、人々がより一層水辺に親しめるような川になることを願います。(W・K)



岸の除草と水中ゴミ拾い

天若湖アートプロジェクト2019「あかりがつなぐ記憶」

6月1・2日(土・日)に京都府南丹市日吉町にある日吉ダムにて、天若湖アートプロジェクトが開催されました。天若湖アートプロジェクトとは、日吉ダムを建設したことにより、約100戸あまりの沈んだ集落をアートという観点から、多くの人達にダムが建設された背景を認識してもらうことを目的として開催されています。

この中の作品の一つとして、「あかりがつなぐ記憶」があります。あかりの配置は、集落の場所を再現しており、暗闇に漂うあかりは、写真では表現できない美しさを発していました。私は去年も参加していたのですが、去年よりも多くの方に来て頂いたように感じていますし、参加者からも良かったと言う声も多く頂けたため、達成感を得ることができました。(O・T)



日吉ダム職員と学生による灯り設置

ホタル観賞会

6月8日(土)に前日までの大雨とは打って変わり天候に恵まれ、ホタルの観賞会が開催されました。今回は三井団地、関西創価学園、南星台に行き、地点ごとにホタルの保全活動や生態に関する歴史などを聞きました。ホタルは都会ではあまり見る機会がありませんが、この機会に実際にこの目で見る事ができたのは、貴重な体験でした。特に、最後に訪れた南星台において自然の川に生息するホタルの姿を見ることができ、その数も50匹を超えるもので、とても神秘的でした。自然環境が減少する中、保全活動や環境維持をしていくことは重要であり、これからも考えるべきことであると思いました。(H・M)



創価学園杉本先生による説明

今後のイベント詳細

“活かそう水辺、つなごう流れ” 「近畿水環境交流会 in 宇治川・伏見みなと」

日時 2019年7月27日(土)、28日(日)

場所 1日目 京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー(京都市伏見区横大路下三栖)
2日目 伏見みなと広場

内容 1日目 9:30-10:00 受付(京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー流域災害研究センター)
10:00-12:00 活動紹介Ⅰ
12:00-13:00 休憩
13:00-13:30 受付
13:30- 挨拶 実行委員長 摂南大学名誉教授 澤井健二
13:40- 特別講演 「近年の水災害とその防止軽減策」
京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー施設長 中川 一
14:25- 報告 「巨椋池干拓地遊水地構想」について 淀川流域勉強会
15:00- 活動紹介Ⅱおよび討論
17:00-18:30 懇親会

2日目 8:30- 9:00 受付(伏見みなと広場)
9:00- 9:30 河岸清掃
9:30-10:00 開会式
10:00-12:00 種々の水面利用の実践(十石舟、生物観察、水質測定、ほか)

12:00－13:00 休憩

13:00－15:00 E ボートレース

15:00－15:30 閉会式、後片付け

(雨天の場合は、午前中に施設見学、午後も天候が回復しない場合は、昼食後解散)

参加費 無料 (但し、1 日目懇親会費 1500 円、2 日目弁当代 1000 円は別途)

参加申込み 2019 年 6 月 15 日～7 月 15 日

〈学生の窓 6〉

ゼミ配属から現在

原田 将志

ゼミの配属から 3 ヶ月が経とうとしていますが、ゼミの活動にはまだ慣れないことが多く、苦勞する毎日を送っています。私は、将来防災に関わる仕事に就きたいと考えており、河川の治水に関することについて松宮君の卒業研究発表を聞き、自分も将来治水関係で人のためになる研究をやりたいと思いましたので、石田ゼミに入ることを決めました。

ゼミの活動の一環としていくつかのイベントに参加させてもらいましたが、自分の知らない知識が多く、日々勉強の毎日です。例えば、初めて参加した解析の勉強会では、山内君や奥西君の発表における討論の際に、知識が追いつかず理解するのに苦勞していたため、聞くことしかできませんでした。魚類調査の手伝いやシンポジウムなど多くのイベントがありました。どの活動においても自分にとって未知の体験となっており、苦勞の中にも知識を蓄積することができる楽しさもあります。

現在は、他の勉強や活動、その打ち合わせなどにより忙しいですが、この 1 年という短い時間を上手く調整しながら日々勉強に励み、有意義なゼミ活動を送れるように頑張っていきたいと思います。

(摂南大学 理工学部 都市環境工学科 4 回生)

編集後記

6 月 1・2 日 (土・日) の 2 日間、天若湖アートプロジェクトに参加してきました。本来、現地集合となっていたのですが、みんなで作る「世界一美しい・京都」のまちの美化市民運動に澤井健二先生が参加するというので、JR 京都駅八条口で 11 時 30 分に会員の山根敬三先生と落ちあい、澤井先生の愛車に私も同乗させていただくことになりました。八条口で食事後、日吉ダム・スプリングスひよしに 1 時間程で到着し、最初に驚いたことは美しいデザイン空間の施設で利用者が多いということです。この施設の設計はネットで検索して建築家の團紀彦氏とわかりました。スプリングス日吉展望連絡橋は 2002 年に土木学会デザイン賞を受賞しています。

1 日目の夜の天若湖アートツアーには、25 名程バスに乗り、京都造形芸術大学准教授の下村泰史先生による天若湖アートプロジェクトの背景と歴史のきめ細やかな説明に天若湖の暗闇に浮かぶ灯りのアートがより一層の感動を与えてくれました。

日本最初の河川法は、1896 年 (明治 29 年) 4 月に制定されて、今年で 123 年になります。東京オリンピック後の日本は、高度経済成長に山を削り開発をし、農村から都市に人が集まって住むように都市計画されました。当時の建設省は利水・治水や電源開発の名の下に 3000 カ所程のダムを造ってきました。国の財源が乏しい中、費用対効果を考え、江戸時代まで使ってきた「自然に逆らわず洪水をやりすごす」や「遊水地」を造り、ダムの堆積土砂等の問題と自然を再生する自然回復の論証が必要と思われます。

2 日目の昼食は、デザインされた日吉ダムカレーを山根先生にごちそうになりました。

編集長 岡崎善久 (岡崎善久建築設計事務所)

淀川愛好会事務局：〒572-8508 寝屋川市池田中町17-8 摂南大学理工学部都市環境工学科 石田研究室内

TEL/FAX : 072-839-9125

HP : <http://www.setsunan.ac.jp/civ/yodoric>

E-mail : ishida@civ.setsunan.ac.jp
